

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 学系別くり募集を導入し、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	希望するコースに進めるよう、入学時からアンケートや個人面談等を実施し、きめ細かい指導を繰り返し行うことにより目標をしっかりと定めて学校生活が送れるようにします。		A	A	引き続き、生徒との信頼関係を深め、充実した学校生活が送れるようにします。				
		② 学系、コースの学習活動に対して、主体的に取り組めたと自己評価し、かつ満足感を持つ生徒が80%以上である。	地域社会の行事に積極的に参加させ、地域とかかわることにより、課題を見つけ出させ、解決方法を考えさせ、解決に結びつけます。		B	A	取り組みに消極的な生徒への働きかけを、多くしていきます。				
	3 主体的な進路選択を実施するために、進路セミナーや職場見学を積極的に取り入れていますか。	③ 生徒が学習や研究の成果を発表できる機会を年1回以上設定し、コミュニケーション能力を備えた社会人の育成を目指し、達成感を持つ生徒が80%以上である。	学習成果発表会や、課題研究発表会などを全校で実施し、校外の発表会などにも積極的に参加させ、生徒のプレゼンテーションの機会を増やしその能力を高めるよう支援します。			B	生徒代表の発表が様々な場面であり、他の生徒も現在研究を進めています。今後、そのまとめのための指導に取り組みます。				
		④ 進路セミナーや企業又は上級学校の見学を実施し、進路意識が高まったと感じる生徒が80%以上である。	企業見学や学校見学を有効なものとするために、見学のための事前指導を行い、見学のポイントやワークシートなどを提供します。また、外部講師による進路セミナー等を実施し、進路意識の高揚をはかります。		A	A	進路意識が高まったと答える生徒が77% (3年生91%)であり、進路意識の向上が図れています。今後は1、2年生に対する指導をLHRや総合的な学習の時間を利用して強化していきたいです。				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	⑤ 利根実版デュアルシステムや、長期現場実習、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。	地域との連携を図り企業実習や農家実習を行います。また、地域の幼小中学校や特別支援学校等と交流を深め、徳育教育への取り組みや言語活動を意図的・計画的に取り入れていきます。		A	A	引き続き、地域貢献活動を継続させ、新たな取り組みにも積極的にチャレンジして行きます。				
		⑥ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。	多くの普通科目において、習熟度別学習、少人数学習、選択学習を導入し、生徒一人ひとりに指導の手が入りやすい授業を行います。また、授業展開で生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面を多く設定します。		B	A	全ての生徒が、学ぶ喜びを実感できるよう、常に指導法の改善を図り、きめ細かな学習指導に取り組みます。				
	6 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	⑦ 授業時間以外に、予習や復習に取り組む学習時間がある生徒が50%以上である。	授業時間外における学び直し学習や、学期ごとの基礎学力テストなどの企画・設定などにより、日頃から学習する習慣や態度を養います。		C	C	家庭学習の定着を目指し、取り組みやすい課題を設定します。				
		⑧ 各種検定や、資格取得に取り組む生徒が全体生徒の80%以上である。	必須で検定に取り組んだり、積極的に受検者を募集し必要に応じ補習や補講を計画し合格への支援を行います。		B	B	検定や資格取得の重要性を再認識させ、早めの取り組みを促します。				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑨ 問題行動で指導される生徒が前年度比の50%以下である。	週1回の学年会議、月1回の生徒指導会議を開催し、生徒の情報を共有し職員の間で共通理解を図ったうえで、一人ひとりの生徒に対応した段階的な指導を実施します。頭髪・服装指導は学年団を中心に徹底指導します。また、挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝校門指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導します。		B	A	問題行動で指導される生徒は減少傾向にあります。今後も積極的な生徒指導を意識した未然防止策を検討し、実施します。				
		⑩ 不登校や転学者、退学者が前年比の50%以下である。	学習活動や学校行事、部活動等の一層の活性化を図り、生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面をより多く設定します。また、特別支援及び教育相談係の会議を定例化し生徒の情報を共有するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に問題を抱えた生徒を支援する体制を強化します。		B	A	不登校や転学者、退学者は減少傾向にあります。今後も積極的な生徒指導を意識した未然防止策を検討し、実施します。				
		⑪ いじめ発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	いじめ防止対策係を中心に、いじめ問題の未然防止、早期発見・解消に向けて組織的に取り組みます。		A	A	三者面談・二者面談をとって早めに情報を集め、早期発見・早期解決に努めます。				
	8 日常的に生徒が自分自身の健康管理を行っていますか。	⑫ 自分自身の不注意により、怪我をする生徒や体調不良を訴える生徒を、前年比の90%以下にする。	「保健だより」を発行し、怪我の予防や健康管理について理解を深めます。		A	A	引き続き「保健だより」等で生徒への情報提供を行うとともに、職員間の連携を密にし、生徒の状態を共有しながら対応していきます。				
		9 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 1カ年皆勤者が生徒数の30%以上である。	家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。		B	B	基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退の未然防止に力を入れます。			
	10 生徒の健康状態に対する適切な指導を行っていますか。	⑭ 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査を受ける生徒が50%以上である。	各種検診の終了後、速やかに保護者あてに受診のすすめを配布し、生徒の受診を促します。		B	B	保護者会等で治療を進めるとともに、治療の状況を把握できるよう、管理表をつくり指導に取り組みます。				
		11 充実した部活動が行われていますか。	⑮ 部活動に加入している生徒が80%以上で、その活動に満足している生徒が80%以上である。	掲示板の設置等で部員の増加に努め、週1回「部活動の日」を設け、職員が部活指導しやすい体制づくりに努めます。		B	B	対外試合や校外発表などの機会を増やし、目標を持たせることで、生徒の奮起を促します。			
	IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	12 3カ年を通して系統的で計画的な指導を行い、生徒の希望に則した進路実現ができましたか。	⑯ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	総合的な学習の時間やHR活動を通じ、「自己の在り方・生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる機会を設定し進路に対する意識の高揚を図ります。また、企業等職業人などの外部講師による進路ガイダンスを開き、進路実現に向けての心構えを育成します。		A	B	1、2年生に対する企業などの外部講師を活用したセミナー等を計画しており、さらに進路に向けた心構えの育成を図ります。			
			⑰ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	保護者向け進路ガイダンスを実施するなど、保護者と生徒で進路を考える機会を定期的に設けます。		A	A	保護者と話し合えるような進路情報の提供方法を計画します。			
		13 適切な進路情報を提供していますか。	⑰ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。	5月に教職員による企業等訪問を実施し情報を収集します。大学・看護系進学希望者には進学対策の補講を実施します。							
			⑱ 進路の手引きを年1回、進路だよりを定期的に発行する。	就職や進学の最新の状況、学校での進路行事の様子などを進路だよりとして提供します。		B	B	進路の手引きは全校に配布しました。後期の進路だよりの発行回数を増加します。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校行事(PTA総会、学年別保護者会、学習成果発表会、学校公開)に積極的に参加する保護者が60%以上である。	保護者会などで適切な資料を配付します。また、進路に関して関心のあることをアンケートで調査して提供資料に反映させます。		B	B	保護者会での進路情報提供や、保護者の欲しい情報を提供するよう努力します。				
		⑳ インターネットを活用した情報発信を月1回以上実施する。	PTA総会や学校公開などの学校行事を休日に実施するなど、保護者が参加しやすい環境を整えます。		A	A	保護者の方が、参加して良かったと思える学校行事になるよう、魅力ある内容を計画します。				
	15 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	㉑ 地域の教育力を積極的に活用し、保護者や地域社会の方を講師とした講演会などを年3回実施する。	Webページ更新や、メール連絡網の活用などを実施し、最新情報を発信します。		A	A	フットワークを軽くし、タイムリーな情報を届けられるようより一層努力します。				
		㉒ 学校の施設開放や、生産物を家庭や地域に還元できる行事を年3回以上実施する。	全校や学年単位で社会人講師による授業を計画的かつ積極的に実施します。		A	A	学年や分掌等で、より積極的に地域の教育力を活用します。				
16 家庭、地域社会に貢献できる活動をしていますか。	㉓ 学校の施設開放や、生産物を家庭や地域に還元できる行事を年3回以上実施する。	年2回のファームフェスティバルの他、地域清掃活動や地域交流、もの作り貢献などコースの特徴を考えた活動を実施します。		A	B	保護者の方々への広報を充実させ、参加率の向上を図ります。					